令和４年度

高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所　自己評価報告

１．実施方法

自己評価表は『専修学校における学校評価ガイドライン』(平成 25 年３月)をもとに作成し、全職員によってそれぞれの項目について点検、評価を行った。評価は、「１(不適切)～４(適切)」の４段階評価とし、併せて可能な限り根拠や課題を明示するように努めた。

２．自己評価の項目と内容

自己評価は、次の１０を大項目として、質問・回答形式で行った。

(１)教育理念・目標	(２)学校運営	(３)教育活動
(４)教育成果	(５)学生支援	(６)教育環境
(７)学生募集	(８)財務	(９)法令等の遵守
(１０)社会貢献・地域連携		

３．自己評価結果　総括

(１)教育理念・目標

教育理念は高岡第一学園の建学の精神に掲げており、学園全体で志しているものである。学校の教育目標は、建学の精神をもとに定められている。これらの教育理念・目標について、教職員は熟知し、新入生オリエンテーションを始めとして折に触れて学生にも伝えている。また、ホームページや学校案内にも記載している。しかし学校案内に記載されている内容が曖昧で外部に向けての周知が不十分だとの意見があったため、来年度の学校案内には誰が見ても分かるようにしていきたい。

(２)学校運営

年度初めに事業計画の策定を行ったうえで、定期的に各運営会議(教職員会議・成績会議等)や日々の朝礼等を通じ、学校運営の進捗状況や課題などを全職員で共有している。

今年度も新型コロナの影響を受け、行事、実習などには多少の変更があったが、コロナ禍３年目ということもあり、迅速に決定し対応することができた。感染者等の対応については、状況が刻々と変化していく中、厚労省からの通知や厚生センターの指示などその時々の最新情報を参考にしながら学校運営に努めた。

情報システムについては十分とは言えないが必要なものは整っている。

(３)教育活動

教育課程および授業時間数、学則は変更や追加などがある場合に所管の富山県に提出し、承認を得ている。

昨年度、専門的事項科目の変更が承認され、今年度から一部新カリキュラムで授業をスタートさせた。それに伴い音楽の授業回数が少なくなり、学生の音楽的技術の低下が危惧される。そのため今年度は、授業以外で数回音楽の実技指導の時間を設け対応を試みた。これらの効果

を検証したうえで来年度からの対応策を検討する必要性がある。

実習については、昨年、一昨年とコロナ禍で不十分なところがあった。今年度はできるだけ平常時に戻せるように予定していたが、7～9 月にかけて第 7 波の影響を受け、施設実習は数名の学生が一部学内実習になった。しかしそれらの学生も、現場での実習を少しは経験できたので昨年度よりも良かった。8 月に予定していた 1 年次の夏期保育体験実習は中止とした。

学習成果の発表については、コロナ禍で 2 年間見送っていた幼教祭を 3 年ぶりに実施した。内容は、子どもと学生の交流を主軸においた幼教祭にリニューアルした。また、同学園の高岡法科大学祭にも参加した。幼児教育を学んでいる学校らしい行事ができ、学校生活の充実にもつながったと思われる。

(4)教育成果

就職指導は履歴書の作成、面接、実技、小論文・作文指導など、試験内容に応じて個別に丁寧に行っている。資格取得率は 100%で、保育・福祉関連への職場で資格を活かして働く学生が多い。昨年に続いて県外での就職希望者が数名おり、県外就職率が高い傾向が見られる。また公務員を希望した学生のうち 2 名が市町村への就職が決まった。

退学率については依然高く、特に 1 年生の退学者が目立つ。学ぶ意欲がなくなり、興味が他のところに向いてしまう傾向が続いている。休学者については、復学を後押しするようサポートしていきたい。1 年次は座学中心になってしまうが、意欲をもって学び続けられるような授業の工夫や、充実した学校生活を送れるよう魅力の創出に努めたい。

(5)学生支援

少人数の学校である強みを生かし、学生一人一人を丁寧に支援している。担任中心に全教員が関わり、学生が自分自身の能力を伸び伸びと発揮できる学校を目指している。学生の相談は面談や電話だけではなく、LINE なども使って気軽にできるようになり、サポート体制は整っている。

経済的に困難を抱えている学生への支援も複数の支援体制で対応しており、必要な学生には個別に丁寧に説明を行い、漏れ落ちる学生がないようにしている。

保護者との連携については、行事で学校の教育活動を見てもらったり、三者面談通して学生の学習状況、就職への理解を深めてもらったりしている。保護者側からも積極的な参加があり、学校運営に理解をしてもらっていると感じている。

(6)教育環境

専門教育に必要な設備・施設は十分に整えられているが老朽化しており、必要な修繕を繰り返すことで対応している。一部授業は隣接する高岡第一高校でも行っている。

学びの環境としては、コロナ禍でも対面授業を主としているため、十分にソーシャルディスタンスがとれる教室を使用している。

実習は、附属園（幼稚園３園、認定こども園２園、保育園１園）と連携を取りながら進めていることが他校にはないメリットである。附属園以外で行う保育実習においても、万が一実習を継続できない事案が生じた場合に、附属園で再実習するチャンスを学生に与えることができ、実習環境には非常に恵まれている。

(7)学生募集

学生数の減少を危惧しており、7年連続重点目標に「学生募集」を掲げ取り組んでいる。今年度、学校訪問に岐阜県の3校を加え、より広域からの学生確保を狙うことを試みたがまだ成果は見られない。毎年学生募集に一定の効果をあげている「高校生のための幼児教育体験講座」が3年連続で1回のみの開催になり参加者が減少したことは痛手であった。また、「社会人のためのオープンスクール」では3名が参加した。オンラインによる進学相談会やオープンスクールには着手していない。

全体的には定員充足率は低下している。引き続き課題としていかねばならない。

(8)財務

学校の財務基盤は学生の減少により厳しくなっている。

予算・収支計画は毎年本学園の理事会にて予算報告を行い、理事の承認を受けている。また、財務については学園本部でとりまとめ、会計監査が適正に行われている。財務情報はHPで公開し誰でも閲覧できる環境を整えている。

(9)法令等の遵守

設置や運営に関する法令は遵守しており、厚労省、文科省、所管の富山県総合政策局の指導を受けながら適正に運営がなされている。

自己評価はH26年度より毎年実施し、問題点を話し合い改善に向けて取り組んでいる。ホームページでの公開もH27年4月よりしている。また、H28年より学校関係者評価も実施し、その内容もホームページ上で公開している。

(１０) 社会貢献・地域連携

社会貢献としては、高岡法科大学祭で本所学生会が赤い羽根共同募金の募金活動をした。教員も教育資源としてそれぞれの専門分野を活かし、地域や社会に貢献している。

また高校生、中学生、社会人、現役保育者、それぞれに向けての講座・講習会を開催し、地域や社会へ貢献している。現役保育者に向けては、例年一般公開の幼児教育講座・講習会を開講しているが、コロナ禍のため、昨年一昨年に続き今年度も一般公開はせず、附属園の保育者向けの研修会として小規模に開催した。

地域連携という点からは、今年度も外部から特別講義の実施依頼や、ボランティアの斡旋依頼が少なかった。高岡市立図書館での読み聞かせボランティアは予定通り4回実施した。次年度以降各施設での活動が再開される可能性があるので、特別講義の依頼を引き受けたり学生のボランティアを推奨したりと地域に開かれた学校を目指していきたい。

４．重点目標について

①学生募集

≪取り組み内容≫

・高校訪問①6 月：県内高校への学生募集（保育コース、福祉科のある高校中心に）
　　②9 月：県内高校・隣県の高等学校への学生募集（糸魚川・金沢・津幡・高山・飛騨）
　　③11 月末～12 月初旬：県内高校への学生募集　（13 校）

・学校の魅力チラシ作成・配布（4 月～）

・附属園のチラシに高校生のための幼児教育体験講座、社会人のためのオープンスクールのお知らせ広告掲載（4 月）

・学校名入りノベルティグッズを作成・配布

・高校に出前講座開催チラシを配布(6 月)

・専各連主催の学校説明会の参加（5/18）

・業者主催の学校説明会の参加（さんぽう　昭栄）

・高岡第一高校の 4 回セットの出前授業参加（5 月～7 月）

・雄峰高校　出前授業参加（6/16）

・上市高校　進路ガイダンス（11/15）

・高校生のための幼児教育体験講座実施（7/27　中止　8/20　約 50 名参加）

・高校生のための幼児教育体験講座で学生の作品展示（8 月）

・マスコミ取材受け入れ

①幼教祭：北日本新聞、富山新聞　　②高校生のための～：ケーブルテレビ高岡
③大学祭：×（養成所の記事として）　④社会人のための～：北日本新聞　富山新聞
⑤土曜おはなし会：×　　⑥卒業記念演奏会：北日本新聞　富山新聞

・社会人の募集チラシを保育所・市役所・支援センターに配布（10 月）

・高岡市広報に「社会人のための～」の広告掲載（12 月号）

・北日本新聞社ゼロニィに「社会人のための～」の広告掲載（12 月）

・社会人のためのオープンスクール実施　（1/21　3 名参加）

・ハローワーク主催の職業訓練説明会に参加（1～2 月　富山、高岡、砺波、氷見）

学生数の減少に危機感を抱いている。高校生の絶対数が減っているため、保育分野に進む学生の総数も減っているようだ。加えて今年度は、保育者にとってマイナスイメージの事件が相次いだため、なり手の確保がさらに難しくなっている。そして複数の養成校で少ない学生を取り合うことになり、本所のような専修学校は非常に不利な立場と言える。しかし、学生募集には今後も地道に取り組んでいかねばならない。今年度、学校の知名度を上げるべくマスコミへの取材依頼をしてきたが、もっと取り上げてもらえるような働きかけができると思われる。また、コロナ禍で夏の体験講座が 1 回しかできていない年が続いたが、次年度からは世の中が平常時に戻りつつあり、体験講座の回数を増やすなど新たな取り組みも必要だと考える。

②学生の保育力向上を図る

≪取り組み内容≫

・掃除巡回　・ワックスがけ指導

・1年生のホームの時間を利用した保育実技の授業実施（音楽、折り紙）

・実習報告会・卒業記念演奏会・卒業研究発表会の準備、練習、発表

・新入生歓迎会・体験講座・幼教祭・大学祭・クリスマス会・お聞かせください会・予餞会の準備、練習、発表

・幼児教育部門演奏会（オペレッタ・幕間）の準備、練習、発表

・おはなし会の練習、発表

・アートM鑑賞（9/19）

掃除も保育力の一面であるという認識のもと、学校の時間割には毎日清掃があり、教員による指導が行われている。この日々の繰り返しが実習先で掃除を任された際、自然に体が動き、掃除用具を使いこなすことにつながっている。

今年度、空きコマを利用して新カリキュラムによって不足することになった音楽の授業を単位認定科目以外で設けたり、折り紙に取り組む時間を設けたりし、保育実技のレベルアップを図った。

また、コロナ禍で規模縮小や中止になっていた行事も復活し、準備や練習の時間を十分に確保してきた。学生は完成したものを発表する機会があることで仲間と協力することや、保育の実践力を身に付けることができた。

③コロナ禍に伴う行事や教育活動の見直し

≪取り組み内容≫

・幼教祭を子どもたちに楽しんでもらうコーナーやステージ発表に特化させ、少人数入れ替え制で園児を招待する形で実施（6/20）

・研修旅行を日帰りの近県バス旅行で実施（7/8）

・施設見学時の食事をバス内から学校内に変更（8/24）

・高岡法科大学祭への参加（10/29）

コロナ禍3年目で、感染対策を取りながらイベントを行っていくという世の中の流れに従い、出来ること、出来ないことを職員間でよく話し合いながら行事等を進めてきた。幼教祭は一般客が多いことから2年間見送ってきたが、来客を附属園の一部の年次に限定し、入れ替え制をとって実施した。内容も子どもとふれ合うコーナー遊びとステージ発表に集約したが、学生数の減少もあり、本所の規模に合ったほど良い幼教祭にリニューアルできたと感じている。秋には幼教祭で作り上げたものをもう一度高岡法科大学祭で披露する機会を設け、コロナ禍でも積極的に学校生活の充実を図ってきた。

研修旅行については、様々なリスクを考慮しつつ学生の思いも汲み取り、今年度は日帰りの福井バス旅行となった。学生には学校生活一番の思い出となったようである。

今後もその時々の状況に合わせながら柔軟に対応し、最善を尽くしたい。

以上